

平成30年度 第1回 恵庭市総合教育会議録

- 1 日 時 平成30年4月27日（金）16:30～17:50
- 2 場 所 恵庭市役所 301・302議室
- 3 出席者 （市長）原田 裕、（教育長）穂積 邦彦、
（教育長職務代理者）宮本 春美、（教育委員）土谷 秀樹、
（教育委員）尾形 直子、（教育委員）福屋 栄人
オブザーバー（副市長）北越 俊二
事務局
（総務部長）横道 義孝、（教育部長）橋場 誠次、
（総務部次長）内山 素宏、（教育部次長）中陳 法仁
- 4 傍聴者 2名
- 5 議題 議題（1）学力・体力の向上について
（2）その他
- 6 議事録内容

1. 市長挨拶

（市長）

本日は、平成30年度第1回恵庭市総合教育会議にご多忙の中ご出席を賜り、感謝申し上げます。

今回で7回目となるこの総合教育会議は、これまで予算における事業の説明や不登校などテーマに沿って話し合いを進めてきており、本市の教育は社会教育も含め、進化してきたと感じている。

今回のテーマとなっている「学力・体力の向上」は、国や道においても意欲的に取り組んでいくと聞いている。そういった中、間近で生徒の様子を把握している教師や地方自治体が、今一度生徒と意見を交えながら、課題を見つけ、それに対する解決策を検討し、学力・体力向上へ成果をあげていただきたいと考えている。

学力・体力の向上は、生徒にとって新しい世界を知るため、また人格形成にも重要なものとなる。我々、大人たちがそれぞれの立場から子どもたちの可能性を引き出すため、どのような取り組みをしているか教育委員会事務局より説明を受け、教育委員の皆様から率直なご意見をいただき有意義な会議としていきたい。

2. 教育長挨拶

（教育長）

日頃より教育推進へのご尽力に感謝申し上げます。

恵庭市の教育は、総合教育会議で定めた恵庭市教育大綱に基づくとともに、恵庭市学校教育基本方針と恵庭市生涯学習基本計画に沿って、教育を進めており、特に、子どもの育成については、「ふるさとに生き 夢と志をいだき 心豊かに たくましく伸びる子どもの

育成」を基本理念とし、生涯にわたって子どもたちの心の拠りどころとなる「ふるさと教育」を基盤に、学力・体力・豊かな心の調和の取れた教育を進めている。

教育の目的が「人格の完成」であることから、学力や体力等については、子どもたちの長い将来を見据えながら教育を展開し、評価し、改善していく道筋が大切と考えている。

学力については、「基礎的・基本的な知識・技能」と「基礎基本を応用して課題を解決する力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの側面で考えていくことが大切である。

また学校は信頼関係の上に成り立つものであり、これからの学校教育の充実には、小中連携教育や学校運営協議会が大きな鍵になると考えている。

本日のテーマである学力や体力の状況について、学校の現状や取組みをしっかりと理解し、教育活動の充実のための支援やまちづくりの観点も含めて将来の教育を学校とともに考えていくことが大切である。

皆様からさまざまなお考えを伺い、確かな学力とそれを支える体力の向上に取組み、活力溢れる学校づくりに繋げて参りたい。

3. 議 題

(1) 学力・体力の向上について

(事務局)：橋場教育部長

○学力・体力向上対策への動き

平成30年度より新たに「学力向上推進事業」として予算が計上された。ここに至るまでの経緯としては、「第5期恵庭市総合計画」の『基本目標Ⅳ 人が育ち文化育むまち』、「子どもの自立成長を促す学校教育」の基本方針において「学力向上に努めます。」と謳われており、「恵庭市総合戦略2018」においても『基本目標(4)希望を持って子育てしたくなるまちづくり』の具体的な施策・事業の一つとして「学力向上施策の推進」と謳われていることによるものである。また、昨年度開催された恵庭地方創生政策形成セミナーにて市役所の若手職員より学力向上に向けた事業提案があり、学力向上の事業化に至った。

○当市の学力・体力の現状

<学力の現状>

平成29年度に行われた「全国学力・学習状況調査」における小中学校の各教科の平均正答率の状況を分析すると、小中学校ともに全国レベルに近づいている、あるいは上回る状況であり、昨年度に比べ、着実な学力の底上げがなされ、学力向上に向けた各学校の取組みに成果が出たものと考えられる。

<体力の現状>

平成29年度に行われた「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における実技の結果について、小学校男子の総合評価Aの割合が昨年度より大きく増加しており、中学校女子においては全道と比較し、多くの種目において上回る結果となった。

○これまでの取組み

<学力向上対策>

各学校で全国学力・学習状況調査やN R T調査の結果を分析し、「学校改善プラン」として、目標を立て、改善方策を検討し、次年度の調査・検査に反映するよう試みている。一例としては、恵み野旭小学校ではいくつかの目標を掲げ、項目ごとに具体的な取組みを組み立て、最後に評価を行う「P D C Aサイクル」が確立されている。

<体力向上対策>

学力と同様に「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を分析し、目標を立て、取組みを検討し、年間計画を立て、体力向上に努めている。

○（仮称）学力・体力向上推進会議の組織・役割

各学校では既に多くの取組みが行われているが、市では今年度「（仮称）学力・体力向上推進会議」として推進組織を新設予定である。組織構成は教育委員会点検評価委員のほか、市P T A連合会、学校運営協議会、学力向上アドバイザー、校長会、教頭会、教育委員会を予定している。推進会議では今まで行われていなかった学校間の情報共有や検証を補完し、全校の「学校改善プラン」「体力向上プラン」を比較・検証し、全市的な向上施策について委員から意見をいただき、施策立案や事業の予算化に繋がたいと考えている。

○平成30年度予算の概要

<学力向上対策事業（9, 433千円）>

既存の事業を「学力向上推進事業」に集約し、一部拡大したほか、新規事業として学力向上アドバイザーの設置、（仮称）学力向上推進会議の設置・運営、英語能力判定テストをベースとして開発された「英検I B A」を導入する。

学力向上推進事業においては、N R T検査の「教科総合」の偏差値の平均値を見ると、「学校力向上プラン」に取り組んできた成果が見られるとともに、小中連携の取組み、習熟度別や少人数などの手厚い指導、I C T機器導入などの教育環境整備などが複合的に反映し、学力の底上げとなり、市全体のレベルアップに繋がったものと分析している。

<体力向上対策事業（50千円）>

「学校教育推進事業」内に学校体育実技支援のための地域人材謝礼として今年度から新たに予算化した。

【質 疑】

（市長）

N R T検査結果は、学年以外にも学校全体や市全体として捉えているのか。また、個人の経年変化は捉えているのか。

⇒学年で捉えており、学校全体や市全体では捉えていない。個人の経年変化はデータを蓄積し、伸びた点や課題を見つける際の参考としており、保護者にも情報提供している。

(B 委員)

学力向上アドバイザーとは具体的にどのようなことをするのか。

⇒市全体として捉えていなかった各学校の学力向上等について分析し、良い取組み等を吸い上げ、情報共有する役割を担う。アドバイザーには学校現場を熟知する教育委員会で5年間指導主事として務めた退職校長を充てた。

(C 委員)

(仮称) 学力・体力向上推進会議では具体的な活動はどういったものか。

⇒学校改善プランや体力向上対策の検討、道教委事業の情報提供や調整を行うほか、各連携の確認や検証を行う。また、学力向上アドバイザーが集約した内容を資料化し、会議で示す予定である。

(D 委員)

学力の実績を見ると向上しているが、家庭学習の指導も関係しているのか。

⇒家庭学習の指導については各学校で取組みは様々であるが、学年×10分の家庭学習が必要とされている。家庭学習を促すだけで終わらず、担任が学習内容を確認しており、小学校であれば家庭学習を提出するとシールを貼るなどしている。ただ、教師が生徒全員分を確認し、毎日返却するのは大変なため、指導主事がヘルプに入るなどの仕組みが出来ればと考えている。

(A 委員)

家庭学習の確認だけでなく、勉強の理解に時間がかかる生徒のフォローアップなども考えると教師の負担が大きくなる。人件費等の予算も必要となるが、支援員などを増やすことは出来ないか。

⇒まずは予算内でどこまで出来るか検討が必要となる。緊急の場合は補正予算で必要な学年に支援員をつけることとなるが、全ての学年、学校となると限度があるため、教育指導主事が手伝うなどが想定される。まずは学校から現状や解決策を出してもらい、必要に応じて予算要求をすることとなる。

(市長)

学校改善プランはどのように作成しているのか。また、学校間で情報共有されているのか。

⇒NRT検査の結果等を受け、年度末に作成し、10月頃に見直しを行っている。主幹教諭が中心となり作成しており、学校間で情報共有を行い、教師から意見を求めるようにしている。

(市長)

土曜授業の実施が学力向上に成果があると聞く。充実させて実施することは出来ないか。

⇒土曜授業の実施は各学校で実績が異なる。柏陽中学校では土曜授業を年間10回程度実施しており、成果が出ている。また、柏陽中学校では小中連携の取組みの一つとして若草小学校の児童も土曜授業に参加できる。参加した児童にアドバイス等を行うことで、いわゆる「中1ギャップ」を埋めることにも繋がる。他校での実施は年2、3回程度だが柏陽中学校の取組みを見て開催数を増やすところも出てきている。柏小学校ではコミュニティスクールで地域の人が九九検定や漢字検定を行うなどしており、その中には学生も参加しており、取組みが市全体に広がればと考えている。

(A委員)

土曜授業の全てを業者に委託することは難しいと思うが、部分的に安価で指導のプロに依頼するなど検討できないか。地域の人達だけでは限界があるかと思う。

⇒業者に委託している自治体もある。土曜授業を実施した場合、担当の教員の勤務日は振替休日となるが、現実問題として休暇の取得が難しい。今後の課題の一つとして考えていきたい。

【まとめ】

(教育長)

学力については「基礎的・基本的な知識・技能」「基礎基本を応用して課題を解決する力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの要素があり、学校の教員たち、「見る」プロが大人になっていく過程を支援している。今回出た取組み等については新規事業を立ち上げるというよりは既存の取組み等を情報共有し、必要に応じて取り入れ、また変更していきたいと考えている。生徒一人ひとりの習熟度等も異なるため、それぞれに合わせた支援がしていけるよう「(仮称)学力・体力向上推進会議」を充実させるためにも、引き続き教育委員の皆さんを始めとした支援、協力をお願いしたい。

(2) その他

次回の開催は10月下旬を予定しており、詳細が決まり次第改めて連絡することとしたい。

以上